

Chichester Times : Special Tokiwa Issue

No.07-6 1 Mar. 2007



雨上がりの敷地をトラクターに引かれた客車に乗って、雨上がりのぬかるみを泥水を跳ね上げながら見て回りました。hedge の制作実習やトラクターなど重機の操作練習、牛・豚の品種改良なども行っているようです。晴れてはいましたが、なにせ強風と揺れる車両の中ですから、説明を聞いている学生は何人いたのでしょうか？牛舎の臭いと足元の得体の知れないベトベト（しているように見える）泥の中をひたすら足早にやり過ごしていましたね。

人気があったのは室内の小動物見学でした。へびに触って喜んでいるこのうれしそうな顔をご覧ください。小さな飼育棟ですが、ネズミにはじまって、陸ガメ・へび・トカゲ・ヤモリ・イモリ・タランチュラなど、イギリス以外の産の生き物ばかりが飼われています。ここで学ぶ学生達たちは、それはもう愛おしげにへびのネルソン君のために餌のネズミを細切りにしたり、タランチュラの餌用にコオロギを飼ったりしているのです。インドネシア産のアルビーノ（白子）のパイソンが一番人気でしたか。全身の脱け殻も天井に大切に展示してありましたから。

Brinsbury Campus

Chichester College には2つのキャンパスがあります。実用的な学科を多く開設しているだけあって本部キャンパスでも carpentry が人気学科だそうですが、ブリンズベリー・キャンパスも人気があるようです。こちらでは、園芸・動物・農業など広大な敷地を活用して、サクソン系の血が大地との共生を目指して教育が行われています。我々は見学者として訪問しましたが、他にも見学者が多く来ていました。親子連れが見受けられましたので、いうなればオープン・キャンパスといったところでしょうか。



ここで唯一種類だけ服を着せられて飼育されている動物は馬です。どうやって騙して育てたのか知りませんが、訪問者にこのように顔を近づけて遊んでくれます。黙って脇に立っていると鼻面をこすりつけてきます。あの大きな円らな目でじっとこちらを（何かを訴えかけるように）見つめるのです（牛も同じ瞳でしたが、この差!）。これでは、誰しもきゃあきゃあ言って触りますよね。競走馬として調教されているようでしたが、調教が終わるとちゃんとシャワーを浴びるのです。泥まみれの豚や糞尿垂れ流しの牛とは「格」が違うのですよ。（吉川）

ここで唯一種類だけ服を着せられて飼育されている動物は馬です。どうやって騙して育てたのか知りませんが、訪問者にこのように顔を近づけて遊んでくれます。黙って脇に立っていると鼻面をこすりつけてきます。あの大きな円らな目でじっとこちらを（何かを訴えかけるように）見つめるのです（牛も同じ瞳でしたが、この差!）。これでは、誰しもきゃあきゃあ言って触りますよね。競走馬として調教されているようでしたが、調教が終わるとちゃんとシャワーを浴びるのです。泥まみれの豚や糞尿垂れ流しの牛とは「格」が違うのですよ。（吉川）

